

◆『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュースレターNo.6 (2012年 11月号) ◆

購読会員の皆さま限定のニュースレターも第6号となりました。「Intelligence」会員専用ウェブサイトとあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。なお購読会員は9月が更新月となっております。新年度の会費をお早めにお納めいただきますようお願い申し上げます。

【11月研究会の概要：第72回】(11月17日午後2時半～4時半) 司会：川崎賢子

・中嶋晋平「戦前期における海軍による広報・宣伝の萌芽－海軍記念日講話関係資料の分析を中心に」：日露戦争から第一次世界大戦後までの間に行われた、海軍記念日の講話に関する資料に基づいて、この講話という活動が、文部省主導による通俗教育から、海軍による広報・宣伝の場として位置づけられていった過程を、民衆の反応とそれに対する認識の変化という相互作用という視点から論じてくださいました。

・安野一之「検閲官の横顔－内務省警保局図書課の人員について」：内務省から旧東京市立図書館に委託された「内務省委託本」約7300冊の調査に基づいて、その過程で発掘した数種類の「検閲官」の名簿をもとに作成したリストを紹介し、各人の役職や異動を検討し、戦後の占領期における「検閲官」の連続の可能性を示唆して下さいました。さらに検閲官の一人であると確認された内山鑄之吉について、築地小劇場で活動しながら、図書課での勤務を始め、検閲係主任となり、情報局で用紙統制委員会などに携わったという経歴が明らかにされ、検閲官の実態を明らかにする興味深いご報告でした。

※なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされています。

<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html>

(閲覧は『Intelligence』の購読会員に限定されています。)

●次回12月の研究会は、12月22日(土)午後2時半からNPO法人インテリジェンス研究所主催・20世紀メディア研究会共催で、白井久也氏、太郎良譲二氏、山本武利氏の三氏にお話し頂く予定です。2013年1月は26日(土)に研究会を開催する予定です。2月はお休みで、3月は30日(土)、4月は27日(土)の予定です。また、ご報告御希望の方は、20

世紀メディア研究所事務所まで、メールにてご一報下さい。m20th@list.waseda.jp

【気になる新著や記事の紹介】[敬称略]

ジョン・ベイリス『戦略論』(勁草書房)は「現代世界の軍事と戦争」という副題で、基本テキストとして第三版を重ねている本の訳で、第八章が「インテリジェンスと戦略」と題されている。佐藤守『情報戦争の教訓』(芙蓉書房出版)は防衛庁に42年間勤務した情報官の回想記。上丸洋一『原発とメディア』(朝日新聞社)は新聞連載に加筆したもので、戦後日本の原子力報道を検討した書。藤竹暁編著『図説日本のメディア』(NHKブックス)、従来の『図説日本のマスメディア』の全面改訂版。原武史『団地の空間政治学』(NHKブックス)は、戦後の団地新聞などのミニコミ誌を丁寧に拾って、団地文化を新しく意義づけた論考。『貸本関係資料集成』(金沢文圃閣)は戦後の貸本関係の新聞雑誌など貴重な資料を編集復刻した。また、『復刻版近代日本博覧会資料集成』(国書刊行会)は、初回配本が植民地での博覧会資料を集めている。石堂彰彦『近代日本のメディアと階層』(吉川弘文館)は明治期の新聞における階層意識を論じた本。

【今月のコラムーワシントン柔道クラブと「知日派」】

ワシントン DC で生活を始めて、はや二ヵ月をむかえようとしている。渡米後、すぐに「ジョージタウン大学・ワシントン柔道クラブ」の門をたたき、20年ぶりに柔道を再開した。同クラブの歴史は非常に長く、多くの部員をかかえている。土地柄か、弁護士や元国務省員、FBI 捜査官、世界銀行エコノミスト、さらにはシドニー五輪モンゴル代表経験者など、人種も民族も国籍も多様な人々が、「いち、にい、さん」のかけ声で柔道に励んでいる。ここで驚いたことは、みな少しずつ日本語に対する知識があり、なかにはネイティブなみに日本語を話す人もいる。彼ら・彼女らの日本に対するイメージはとてもよく、柔道が「文化外交」の一端を担っていることをひしひしと感じる。

だが、惜しむらくは、国際交流基金などの機関からの資金援助はなされていないことである。ワシントン DC でも中国の存在感が日増しに強まっている。こういう時代だからこそ、ソフト・パワーとしての柔道に民間・公共機関を問わず「投資」し、柔道を愛する「知日派」を大切にすることがあるのではないだろうか。

[11月20日付文責：小林聡明]